

授業科目名	専門演習	担当教員	中尾 清	藤野一夫
必修の区分	必修		熊倉敬聡	古賀弥生
単位数	4 単位		西崎伸子	直井岳人
授業の方法	演習		大社 充	小熊英国
開講年次	3 年第 1 ・ 3 クォーター		塩川太郎	藤本悠
			尾西教彰	杉山至
			池田千恵子	木田真理子
			山中俊之	高橋伸佳
			小畑克典	坂本ひとみ
講義内容	<p>学生が分野の異なる複数の教員による指導を受けながら、芸術文化と観光を生かして地域活性化につなげる専門的知識の理解を深めるとともに、実行力を高める。学生は、研究課題の収集や研究方法の検討などをグループで協働して取り組むことを通じて、意見を調整しながら様々な研究手法を試みるとともに、課題解決の方策を考える能力の修得を目指す。</p> <p>総合演習を見据えて、学生が関心を抱いた研究テーマに基づき専門演習を選択し、芸術文化と観光の双方の視点から学修する。具体的には、芸術文化系の教員と観光系の教員がそれぞれ主指導と副指導のペアで行うが、グループのテーマや人数に応じては 3 名以上の教員体制とする。指導教員は適正や能力を把握した上で、様々な課題を提示し、学生が課題に取り組み、グループワークを行った後にとりまとめを行う。</p>			
到達目標	<p>・芸術文化と観光を生かし、地域活性化や課題解決につながる方策を考えることができる。</p> <p>・総合演習で自身に取り組む課題の方向性を考えることができる。</p>			
授業計画	<p>第 1 クォーター</p> <p>1 回 オリエンテーション、テーマ毎にグループ編成</p> <p>2 回 先行事例の研究① 文化芸術推進計画、舞台芸術、観光事業等に関する文献調査</p> <p>3 回 先行事例の研究② 事例毎に調査研究を継続して課題の発見</p> <p>4 回 グループワーク解析方法の修得① 先行事例の研究から発見された課題を解析する方法を、芸術文化及び観光の観点から解析</p> <p>5 回 グループワーク解析方法の修得② 課題の解析方法を複眼的に修得</p> <p>6 回 グループワーク これまで発見した課題と修得した解析方法をもとに、新たな気づきを促すと同時に課題を整理</p> <p>7 回 研究手法の修得① 課題の研究手法を精査し、主指導教員からグループ指導</p> <p>8 回 研究手法の修得② 課題の研究手法を精査し、副指導教員からグループ指導</p> <p>9 回 グループワーク これまで発見した課題と修得した研究手法をもとに、視点を変えて課題を整理</p> <p>10 回 研究課題発見方法の修得① 新課題についての研究手法を精査し、主指導教員からグループ指導</p> <p>11 回 研究課題発見方法の修得②</p>			

	<p>新課題についての研究手法を精査し、副指導教員からグループ指導</p> <p>12回 グループワーク 視点を変えた課題の整理</p> <p>第3クォーター</p> <p>1回 先行文献の解読① 事例毎に文献の解読を進め、第1クォーターで析出した課題の解決方法の検討</p> <p>2回 先行文献の解読② さらに事例毎に文献の解読を進め、第1クォーターで析出した課題の解決方法の検討</p> <p>3回 グループワーク これまでの演習で得られた知見をもとに、課題の解決方法を共同検討</p> <p>4回 情報分析の修得① 主指導からグループ指導を受けながら、課題の解決方法の精度を上げ、アウトプットのための情報を分析</p> <p>5回 情報分析の修得② 副指導からグループ指導を受けながら、課題の解決方法の精度を上げ、アウトプットのための情報を分析</p> <p>6回 グループワーク これまでに修得した課題の解決方法について、解決方法を共有</p> <p>7回 研究成果の取りまとめ方法の修得① 課題発見から課題解決に至る研究過程について、グループ全員が協力して取りまとめ</p> <p>8回 研究成果の取りまとめ方法の修得② 課題発見から課題解決に至る研究過程について、グループ全員が協力して取りまとめ、発表に向けた準備</p> <p>9回 グループワーク グループ全員が協力して発表方法等の検討</p> <p>10回 研究課題の成果発表① グループ毎に課題分析結果を発表</p> <p>11回 研究課題の成果発表② グループ毎に課題分析結果を発表</p> <p>12回 研究課題の成果発表③ グループ毎に課題分析結果を発表、全体講評の実施 専門演習を総括し、総合演習に向けて、必要な視点を講評</p>
事前・事後学習	あらかじめ担当教員が指示した資料を読み込み、疑問点や発言内容を整理しておくこと。
テキスト	事前に適宜指示する。
参考文献	事前に適宜指示する。
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでの貢献度（50パーセント） ・研究成果の内容（50パーセント） <p>評価にあたっては、次の点を重視する。</p>

	芸術文化分野の研究課題においては、観光・経営分野の視点が反映・応用されているか、他方、観光・経営分野の研究課題においては、芸術文化分野の視点が反映・応用されているか。
履修上の注意 履修要件	特になし。 原則として、専門演習で履修した研究テーマを踏まえ、総合演習の研究テーマを選択すること。
実践的教育	該当しない。
備考欄	

